

図書館協議会：市民のご意見を聞く会市民の方の発言

平成 17 年（2005 年）9 月 15 日（木）14：00～

発言者 A： 私自身の懸念についてお話しします。目下構造改革によって行政の方のスリム化で委託問題、指定管理者制度、図書費減額ということがどこでもおきています。その時に図書館の生き残りはどうしたらいいのかということです。図書館は人を支えるすごく根幹的な場であると思っていますが、今の吹田の図書館の現状であれば市民からもそれほど支持もありません。私は千里山の図書館ができるときの市民会議の責任者でしたが、その折に市民が度重ねて行政との話し合いをした中で、もっと効率的な建物とか機能とか、あるいはバリアフリーが本来のバリアフリー的な機能を持つようにと強く申しましたが、市民の意見が生きたということは無かったです。山田の図書館ができる前に、千里丘とか岸部に図書館がないということがすごく問題だし、6ブロック構想自体が図書館計画の中にぜんぜん馴染まない形で始まっていると申しましたが、聞く耳は持たれませんでした。やはりそれはちゃんとしたマスタープランが吹田の図書館にないということが一番大きな問題ではないかと考えました。それで協議会でマスタープランができますことを望んで期待をしていましたが、現状の吹田の図書館の在り方とか、もう少し緻密な判断とか分析をしていただきたいという思いがあります。協議会の委員の方たちにしていただきたいことは、吹田の図書館はこれくらいのレベルを目指して、きちんと理論として述べてほしい。

「指定管理者制度はやめよう。委託もやめよう。職員はしっかり正職でいこう」とんでもない話だと思われても、そういうものが絶対に市民を支えていく。これからの先細り的な福祉の中で、自己責任とかの問題になった時にみんなを支えていくことが出来る。すごく大きな働きをする場としての図書館を謳いあげていただいてもいいのではないかと思います。図書館員も市民も「ああ図書館はこういうものだな」と、簡単な言葉でも表現できるようなものとして認識していただくことをまず一歩から始めて欲しいと思います。

図書館協議会：市民のご意見を聞く会市民の方の発言

平成 17 年（2005 年）9 月 15 日（木）14：00～

発言者 B： 私の意見はシチズンシップとドナーションという観点を聞きたいと思います。今までの意見だと、吹田市が何々をしてくれるという形しか採ってないのですが、市民サイドから見ても何か供給できるものがあると思うのです。それはドナーション、寄付でありボランティアという観点もそうですが、例えば蔵書の寄付行為であるとか、その他いろいろなアプリケーションが採れると思うのです。例えば定年退職された方で、それなりの資格をお持ちの方の人材的なボランティアだって可能だと思います。そういう小さな枠から広げていって、市民の声を確実に捉えていき大きなフレームに持っていくという形がこれから望まれるのではないかと。外から紋切り形にアンケートをしてもある程度の意見の集約、こういうような形でしょうということしかわからないのであって、実際に図書館を使用されている方でどの程度まで突っ込んだ意見が採れているということ、ちょっと問題があると思います。もっとソフトレベルで、マンパワーというのか、そういう部分での受け皿と市民シップ。両方最初から無いのは分かっているが、どちらからか始めていかないとこれは始まらないので、協議会の一つの提案として、議題としてあげていただきたいと思っています。

図書館協議会：市民のご意見を聞く会市民の方の発言

平成 17 年（2005 年）9 月 15 日（木）14：00～

発言者 C：千里丘中に 20 年近く住んでいて、高齢者の立場として意見をもっております。千里丘地域というのはもともと環境的には生活がしやすい反面、非常に僻地的な要素を持っています。私が持っている図書館への思いの 1 番目は、偏在している図書館を均して、千里丘地域にぜひ早く実現してほしいということ。2 番目は、文化情報センターとしての役割を持たしてもらってもいいのではないかと、これは自動車文庫という形ではなかなか実現しにくい。そういう意味での図書館の役割。これは山田図書館をみても、あそこは公民館があって下が出張所という形で施設が 3 つ揃っていて、非常に情報活動が活発なように思います。これは公民館が中心になって、いろんな会を企画され、教育文化的な行事が非常に盛んで、図書館が積極的にそれを利用して協力されているのは、山田図書館の非常に優れた面だと思っています。3 番目は、図書館が単に本を借り出して読む所という以外に、少し多機能的な面があってもいいのではないかと。特にこれから高齢者が増えていくということから、談話室のようなもの。もうひとつは年齢的には、これから少子化とって若い人口は減ってくるといわれていますけども、地域的には千里丘地域はマンションが多く若年層の人口が非常に多いんです。子どもが放課後の居場所としての図書館ですね。高齢者なども深呼吸したり体操したり生活的な要素を取り入れた図書館にしていだけたらと思っています。4 番目としては、最近、民間委託によるいろんな話がありますが、やっぱり吹田の図書館は公立でないが無理なのではないかと。ぜひ公立で頑張ってくださいと思っています。

図書館協議会：市民のご意見を聞く会市民の方の発言

平成 17 年（2005 年）9 月 15 日（木）14：00～

発言者 D： 私は尺谷という吹田で東の端に属する地域に 25 年住んでいて、公立の施設の本当に少ない所だと常々感じています。今回の中間答申を一読させていただいたて、一般的には大いに賛同する立場であります。その中で千里丘地域といっても、吹田の 6 ブロック構想でいいますと千里丘山田地域ということで括られています、山田と千里丘とでは生活の環境からしても状況が一変して、まさにそのブロックで図書館がひとつというのは、とても理解し難い状況です。この答申で若干触れられている新山田図書館の意見書の中で 3 点に亘って留意点が書かれていますが、この点はいずれも非常に大事な指摘であると思います。中でも 3 点目の「・・とりわけ千里丘地区などいわゆる図書館空白地域での整備計画もあわせて検討されることが望まれます」と。それと今の吹田市立図書館の現状と課題ですが、その中でも 6 ブロック構想で一応図書館整備されたけれども、千里丘地域や岸部地域の図書館未整備地域は市内に多く残り、今後一層の図書館整備が求められというふうに重ねた形で、千里丘地域が他の地域に比べて均衡が取れてないような指摘がされています。この点は高く評価したいと思います。この地域というのは、最近マンションの建設ラッシュで急速に人口が増えてきて、とりわけ小さな子どもが増えてきます。そういう一つの特徴点から望まれる図書館として、特に子どもの時から本に親しめる環境を作る図書館というのが非情に大事な観点だと思います。指定管理者制度については、まず公立図書館の基本的な性格を示されまして、そして図書館法に基づく公立図書館の設置というのは、これは地方自治体の責務であると指摘されています。そういう観点から、「公立図書館が指定管理者制度はふさわしいと考えることは出来ない」と断じておられると共に、答申で述べられている今後のサービスの拡充が、この制度によって達成できるかと疑問を呈しておられます。この点に関して全く同感でありまして、改めてこういう答申をされた図書館協議会の皆さんの姿勢には敬意を表したいと思います。今後最終答申に向けて、今後は施設面での諸課題となると思うのですけども、新しい図書館の建設というのは、新館建設の必要性という項目は出てますけども、千里丘地域での図書館の建設の具体化についての答申がなされることを重ねて要望します。

図書館協議会：市民のご意見を聞く会市民の方の発言

平成 17 年（2005 年）9 月 15 日（木）14：00～

発言者 E： 私は長野地域に 20 年ほど住んでいます。市立図書館のあり方について 2、3 の意見を述べます。中間答申はユネスコの公立図書館宣言の理念に基づき市立図書館の基本方針を提示していて、おおむね賛同できるものです。しかしこれまでの吹田市の図書館行政を振り返ってみると、いくつかの疑問や問題点を指摘せざるを得ません。それは、行政サービスは市民や地域住民に公平に提供しなければならないという行政の公平性の原則に照らしてみても、現状の図書館行政がかなり原則から逸脱しているということ。私が居住する千里丘地域は「市民本意の利用しやすい図書館、市民活動の地域に開かれた居場所・空間としての図書館」とは疎遠な図書館空白地域となっていることです。昨年からは山田千里丘地域の住民は、これまで市の教育委員会あてに山田図書館閉鎖計画の撤回と千里丘地域に図書館建設を求める 2 通の要望書、1 万 1 千筆を超える署名簿を提出してきました。地域に図書館がほしいという地域住民の切実で強い要望で、この地域の住民が吹田市の文化や図書館行政から見放されているという不満や危機感の反映であると思います。図書館協議会は昨年 4 月の図書館行政の緊急政策課題に関する中央図書館館長の諮問に対して、意見書の中で次のように進言されています。今後新設される図書館が「・・・とりわけ千里丘地区など、いわゆる図書館空白地区での整備計画もあわせて検討されることが望まれます」と。協議会のこうした認識というのは、地域住民の切実な要望に応えていただいたものと思っています。さらに、4 月の山田千里丘地域住民に対する教育長の回答では、「山田駅前に公共公益施設内に図書館を設置すると共に、現山田図書館を存続させ一体的な運営をしていくこと、さらに協議会の提言などを踏まえて千里丘地域などの図書館利用不備地域の解消に努めて参りたい」と述べておられます。千里丘地域の図書館空白地域を解消するには地域住民のニーズに応えた利用のしやすい公立図書館を新設することが必要だと考えています。山田千里丘地域は、近年大型マンションや住宅団地の開発が進んでいて、人口が急増しています。6 ブロックの中でも人口が最も多い地域です。2003 年で 7 2 6 5 9 人、その内の約 4 5 パーセントは千里丘地域に住んでいます。しかも山田地域と千里丘地域は万博環状道路に続く樫切山市場線で二分割されています。それぞれの地域で事情がかなり異なっていて、山田地域が阪急沿線エリアとすれば、千里丘地域は JR 千里丘エリアで地形も起伏が多くあり、山田図書館の利用は特に子育て中の主婦や子どもたち、お年寄りなどには不可能に近いといえます。千里丘地域は、図書館利用者登録者率でワースト 1 ～ 5 位に町名が並んでいるのも、こうした事情の反映であり、図書館サービスにおいてはかなり不利益を受けていますし、新規の図書館建設がなされないと図書館行政サービスの不公平は解消されません。早急に千里丘地区に公立図書館の建設をしていただき、地域住民の切実な要望を図書館協議会としても図書館のあり方の基本方針と留意点に沿って、最終答申で是非提言していただくよう強く希望します。

図書館協議会：市民のご意見を聞く会市民の方の発言

平成 17 年（2005 年）9 月 15 日（木）14：00～

発言者 F： 最終答申の図書館整備計画で千里丘地域での分館建設をしていただきたいという立場で、千里丘住民の声をお伝えします。私は長野西に在住ですが、昨年夏、山田図書館がなくなるという話をきいてびっくりしました。今でもかろうじて自転車などで利用しているのに、さらに遠い阪急駅前に移転すると我々を切り捨てるのかという思いでいっぱいでした。最北東部に位置する青葉が丘、新芦屋地域の住民には論外の話です。図書館の設置地図を見ると千里丘地域はまさに空白地域です。市の北東部は自動車文庫で補っていますが、短いところで30分。長いところで2時間の限定です。これはイカンということで山田図書館の存続、千里丘地域に図書館建設をと強く願い署名を呼びかけたところ、急速に署名が集まりました。また千里丘地域住民の声を聞こうと、2月に千里丘地域に図書館を求める集いをしました。その中で、「我々の地域は離れ小島という感じだ」、「山田図書館を残しても山を2つ超えていく必要がある」、「図書館は毎日行くが山田図書館は遠い。千里丘にぜひ建てて欲しい」、「子どもたちが自ら出かけて行く子どもの施設がない」、「吹田は良い環境であると移ってきたが、住んでみると公共施設がない、これ以上の待ちぼうけは嫌です」と、切実な要求が多数でした。3月には地元の強い要望により、第2弾の千里丘地域に図書館を求める集いを開催。「千里丘地域は僻地であるが、最近緑はなくなりマンションに様変わり、新住民の若い人達、子どもが増え、高齢者も増えているので、その人たちに合った図書館が望まれる」、「図書館は各年代層が楽しめる談話室が必要で、次世代が育つ環境が大切」という意見も出ました。現在千里丘地域の人口は急激な増加で33057人です。8月28日南山田公民館で図書館を求める活動の中間報告を開催し、千里丘地域の図書館への強い思いを確認しました。このように千里丘地域の願いを中間答申から続けていただき、最終答申では地域分館分室の整備の基本的な考え方では、歩ける範囲に図書館、1キロ圏に必ず図書館、そして配置計画年次計画では是非千里丘地域での図書館建設。運営は公的責任で行う方針をお願いしたいと思います。

図書館協議会：市民のご意見を聞く会市民の方の発言

平成 17 年（2005 年）9 月 15 日（木）14：00～

発言者 G： 私は新芦屋に在住、吹田に来て 26 年、子育てを吹田でしてきました。吹田は子育てにいい所、環境がいいよと言われていたけれども、市内のいい施設である図書館、体育館、メイシアター、市役所、病院など、本当に行くには不便なところに住んでいるので、反ってそれは不公平感を持って日々暮らしていました。子育てというと、わが子をいい子に育てたい、本好きにして頭のいい子に育てたいというのは誰しも思っていたわけです。だけど山を 2 つ越えないと山田の図書館でさえ通えない。小さい子どもを連れて自動車文庫が唯一の頼みの綱でしたから、自動車文庫にはずっと通っていました。毎月水曜日 2 時から。今は 2 時から 4 時ということで吹田では一番長い時間来てくれますが、夏の暑い 8 月はお休みです。冬の 1 月 2 月はすごく寒くて、やっぱり小さい子どもさんを連れて行くというのはすごく大変で、みんな制約された中での利用で、本当に自動車文庫だけではみんなの要求は満たせないと思っています。そして、ずいぶん高齢化もしてきましたので、ますます図書館に通うことが大変だなという時に自動車文庫だけでは不十分です。市報で「おひざで絵本」とか「だっこで絵本」などの絵本のサービスの案内を見ますが、全部中央図書館であるので、小さいお子さんをつれてなかなかいけないというのが現状です。自分たちの地域を歩いたり、自転車で通ってユックリした時間を過ごしなが、より広い世界に触れられるような図書館をぜひとも作って欲しい。本当に明確に図書館を新設して欲しいということ、住民の意見として取りあげて欲しいと思っています。

図書館協議会：市民のご意見を聞く会市民の方の発言

平成 17 年（2005 年）9 月 15 日（木）14：00～

発言者 H： 運営面の『指定管理者制度』に限り意見を述べます。私は大学図書館で正職として 6 年半勤務しました。現在は吹田市立男女共同参画センターで非常勤の情報アドバイザーとして、女性のエンパワーメントに役立つ情報を収集し提供する仕事をしています。男女共同参画の情報分野では埼玉にある国立女性教育会館が総本山であり、全国のセンターには直営も民営もありますが、税金を使っていれば、公的責任は共にあります。この答申では直営でなければ公平、平等、継続、安定、発展性が確保できないような書かれ方がされていたので疑問をもちました。図書館の運営では直営でも民営でも事業計画や予算、運営の内部チェックシステムがなければ、安定も発展もないと思います。指定管理者制度を導入するか、しないかで質が左右されるのではなくて、いずれであっても課題は優れた事業計画とその立案と実施を可能にする人材と予算が確保できるかどうかです。また大切なのは年度毎の業務報告について議会や運営協議会などが評価機能を発揮することです。中間答申では 3 点から指定管理者制度導入について否定的な結論でしたが、説得力を欠いているように思いました。

また、専門職員の処遇についてですが、吹田市の図書館は「ちさと図書館」の新設で非常勤職員が急増しました。現在の市立図書館の司書間には身分差があり労働問題で歪みが生じています。非常勤職員も地方公務員と同じ資格をもっていて、日々努力をしているにもかかわらず、処遇でも業務内容でも格差をつけられているのが現状です。昇格はなく、全員正職員化される見通しはこの財政下では全くありません。一つの可能性として、非常勤、再任用、中途退職者などの有資格者を中心とする、一定の知識と経験を有する方で法人を設立して、吹田市の指定管理者制度の担い手となる案があります。指定管理者制度の導入方法次第でサービス向上、労働問題解決に新たな展開が期待できると思います。この制度を経費削減だけを狙ったものと決めつけるのではなくて、吹田市において同一価値労働、同一賃金の原則を貫徹させた健全な人間関係で運営される図書館を作っていただきたい。市内図書館のいくつかは特色ある専門サービス（例えば分野では児童・青少年・国際・高齢・ビジネス分野の特化、夜間 10 時まで開館など）を展開することをめざし、この制度を積極的に活用することを検討する余地もあるのではないかと、というのが私の意見です。